

地区青少年交換委員会

委員 **吉野 正史**
(大阪天満橋RC)

三地区（D-2640, D-2660, D-2680）青少年交換委員会は、9月27日～28日、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の一つ吉野山（竹林院群芳園）において、来日学生15名を迎え一泊二日でオリエンテーションを開催しました。この時期は来日してまだ1ヶ月余り…、学校や家庭生活、気候、風土、習慣、食べ物、人間関係等で、急激な環境変化に順応出来なくなり、体調不良やホームシックにかかる場合が少なくありません。

従ってこの企画目的は、このような危機の有無確認や、潜在する悩み等をいち早く察知してあげて、快適で充実したジャパンライフを過ごして戴くためのものです。

- ①ヒアリングにより“心のケア”をしてあげること。
- ②日本文化の紹介や体験を通じて理解を深め和んでもらう。
- ③地域の色々な方々と親交を図り、早く日本の生活に慣れてもらう。

これまで当地区では、毎年インバウンド10名前後の人数でしたが、今年は5名と著しく少なく、他地区にも打診したところ、企画目的や内容に強い賛同を得て実現に至りました。他に参加者は、地元高校の先生と生徒7名、吉野地域の文化団体18名、ROTEX14名、ロータリアン10名、一般7

名の総勢70名で盛大になりました。

ガイダンスに続いて主催者の挨拶（代表：植田委員長）、地元から歓迎メッセージを戴き、来日学生の自己紹介と大淀高校生から学校紹介を受けて相互の友好を図りました。

続いて日本文化の紹介では、箏と尺八の音で日本古謡を奏でて戴きました。英語解説を交えて“花すみれ”、“三段の調べ”を厳かな雰囲気鑑賞し、“さくらさくら”では大淀高校生が合唱を披露してくれました。また、民謡では“おてもやん”、“安来節”をコミカルに踊って戴き飛入りで来日学生も一緒に踊って楽しんでいました。

最後の着物ファッションショーでは振袖や浴衣を着せて戴き、夏祭りや一足早いお正月気分も味わえて大いに喜んでいました。文化交流会の終わりには、徳岡前委員長から来日学生に対してご指導を戴き、地元のご協力戴いた方々に謝辞を述べて戴きました。夕食も会席料理を賞味でき食文化の素晴らしさに舌鼓みも滑らかでした。僅か3時間程度ですが日本の文化に触れ、新たな感動や感性が培われたのではないかと思います。

食後は今回のメインテーマであるヒアリングを各地区単位でローテックスの方も交えて入念に行いました。学校や家庭

生活での困惑や希望等を聞きましたが、幸いにも大きな悩みはなく一安心しました。終わり頃にはAubrey Foxさんから、来年4月に予定している広島旅行には、是非皆で千羽鶴を作って原爆記念碑に捧げようとの提案があり、賛成多数で準備に掛かることになりました。また三地区の青少年交換委員も、現状の課題や今後の取組みについて、熱心に深夜まで意見交換を行いました。

翌朝は、7時から心地良い空気に包まれて、西行法師や松尾芭蕉が歩いた古道を散策し、謡曲「義経千本桜」で名高い『花矢倉展望台』から見下ろした吉野山の眺望は清々しいものでした。朝食を終えて会場前庭で記念撮影をして、ボランティアガイドの引率で世界遺産の吉水神社と金峰山寺を見学しました。終始食い入るような眼差しと興味を示す真剣な表情に、「連れて来てあげて良かったなあ！」と

痛感しました。帰りの道中では彼岸花の群生する飛鳥の棚田を車窓から眺めながら、やがて橿原神宮近辺では再会を誓い手を振りあって其々の家路につきました。

